

要 旨

本研究では、旧『心のノート』（現『私たちの道徳』）で取り上げられている生命尊重についての観点を偶然性、有限性、唯一性、関係性、連続性の5つに整理し、道徳の時間において連続して配列した単元を構成した。このように、5つの観点から迫ることで、生命尊重への意識が深まり、新たな認識とも出会うことをねらいとした。授業では、児童の実態に応じた資料の精選、生命を捉えるキーワードの提示、5つの観点の関連が目に見えるような掲示物の活用等を行うことで、児童は自他の生命の尊さや生きることのすばらしさの自覚を深めることができるようになった。

〈キーワード〉 ①生命尊重 ②5つの観点 ③自他の生命の尊さ ④連続した配列

1 研究の目標

自他の生命の大切さを実感できる児童を育てるために、生命尊重の内容項目における道徳指導の在り方を探る。

2 目標設定の趣旨

今日の少子化、核家族化、情報化社会の進展など、児童を取り巻く社会の変動は大きく、人や社会、自然との関わりが希薄になり、本当の死に直面したり、それを実感したりする機会が少なくなっている。その一方で、テレビやDVD、人の生命を奪うようなゲーム等を通じて、児童は虚構の世界で作られた生と死に接している。このような児童を取り巻く環境の変化が、生命に対する感性や意識の低下を招いており、所属校3年生の日常生活においても、生命を軽んじる発言をしたり、死を安易に口にしたりするなど、自他の生命の大切さを感じ取れていない姿が少なからず見られる。

このような状況の中、平成16年には文部科学省から、生命を大切にす教育の充実を一つの柱とする「児童生徒の問題行動対策重点プログラム」が提示され、教育活動全体を通じて、生命を大切にす心を育む教育の一層の充実が求められているところである。

生命を大切にす心を育むためには、道徳教育において生命の大切さに関わる内容を重点とし、道徳の時間を弾力的に扱ったり、他の教育活動と関連させたりしながら、自他の生命の尊さ、誕生の奇跡、死の重さ、生きることのすばらしさなど、生命を大切にすことへの自覚を深める学習指導の展開を工夫していく必要がある。生命尊重の授業実践では、「命の有限性(死と直面している存在)」「命の連続性(先祖、親より脈々とつながっている側面)」からねらいに迫る資料が圧倒的に多いが、生命についての考えを更に深めていくために、旧『心のノート』（現『私たちの道徳』）で取り上げられている分け方に従い、有限性、連続性に加えて、唯一性、偶然性、関係性を用いることとした。このように生命を単元として整理した生命尊重の道徳の時間を構想し、重点的に指導を重ね、児童の「命そのもの」の認識と「生命尊重」の価値に対する変容を考察することは、意義があることと考えた。

そこで本研究では、研究テーマ、研究課題を受け、生命尊重の内容項目を連続して配列した道徳授業の実践例の作成を通して、生命を大切にす心を育むための指導の在り方を明らかにし、道徳教育の充実に役立てていきたいと考え、本目標を設定した。

3 研究の仮説

生命尊重の内容項目を連続して配列し、5つの観点に基づいた単元を構成すれば、生命の尊さを多面的に捉えられるようになり、自分だけでなく他の生命も大切にしようとする児童が育つであろう。

4 研究方法

- (1) 文献や先行研究などを基にした、生命を大切にする心を育む道德教育についての理論研究
- (2) 生命に関する体験や考え方についてのアンケートの実施、分析
- (3) 仮説を検証するための授業実践及び授業分析と考察

5 研究内容

- (1) 生命を大切にする心を育む道德教育に関しての理論研究を基に、生命尊重の内容項目を配列した道德授業の実践例の作成を行う。
- (2) 生命に関するアンケートを行い、その結果を分析し、単元構成や活動の工夫の際の基礎資料としたり、児童の実態を把握したりする。
- (3) 所属校の3年生において、5つの観点に基づいた授業実践(5時間)を行い、仮説を検証する。

6 研究の実際

- (1) 文献等による理論研究

小学校学習指導要領解説道德編では、生命の大切さを自覚できるようにするために、「社会的なかわりの中での生命や、自然の中での生命、さらには生命の尊厳性など、多面的な視点から考えを深めていくことが重要である」¹⁾と述べられている。また、生命を考え合う授業づくりについて立石は、「『子どものもつ生命観を問い直し、吟味させ、いのちとは何だろう』『本当に生きるためには、どうすればよいのだろう』といった、“いのち”をみんなで考え、深め合う授業づくりの工夫が求められよう」²⁾と述べている。ここで重要なことは、教師が生命の多面性を的確に把握して指導に当たるということである。多面性としては、旧『心のノート』(現『私たちの道德』)に取り上げられている観点を偶然性、有限性、唯一性、関係性、連続性に整理、統合した5つとする。これらを踏まえ、年間計画で内容項目3-(1)生命尊重の道德の時間を5時間設定する。笹田は、道德学習における単元構成の4つの類型の中で、一つの価値項目を年間3～5回繰り返して指導することを、「同一価値総合型」と位置付けている。5つの観点から迫ることにより、生命への意識の深まりと、新たな認識との出会いが期待でき、さらに、他者や他の生命に対する認識にまで広げていけるようにする。

これらのことを受け、本研究では、自他の生命の大切さを実感できる児童を育てるために、生命尊重の内容項目を連続して配列し、5つの観点に基づいた単元を構成した道德指導の在り方を研究することとした。

- (2) 児童の実態と研究の全体構想

本学級3年生児童は、10月に実施した事前アンケートで、生命が大切であることを十分に意識していることが分かった。しかし、児童によっては核家族や少子化で人の死や誕生に関わる経験が少なく、家庭の都合などで生き物を飼うこともできにくいという現状がある。また、ゲームではリセットボタンを押せば、死んだ人が簡単に生き返るなど、死や生に現実感がない。このような状況だからこそ、5つの観点から連続した生命尊重の指導を行い、生命尊重の道德的価値を内面的に自覚させることが大切である。そうすることで自分の生命を大切に、さらには他人や他の生き物の生

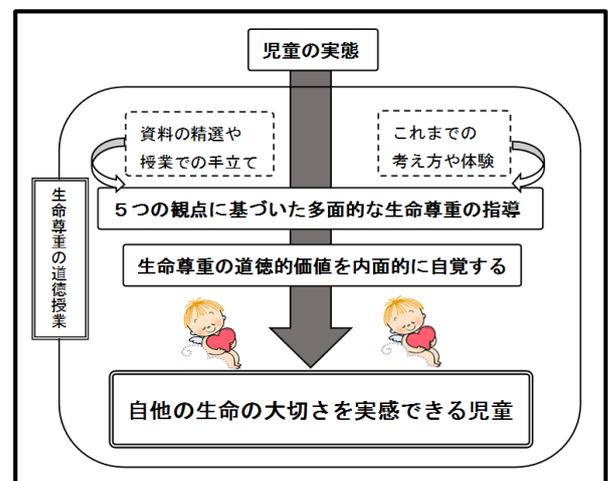


図1 研究の全体構想図

命を大切にしようとする事へとつながっていくであろうと考えた(前頁図1)。

(3) 道徳的価値を深めるための単元構想

ア 5つの観点を踏まえた授業の配列

本研究では、ねらいとする道徳的価値の自覚の深まりに向かう段階として、始まり(偶然性)、終わり(有限性)、たった一つ(唯一性)、かかわり(関係性)、つながり(連続性)という5つの観点の関連を図2のように整理した。児童の生活経験には個人差があり、生命尊重についての知識や経験も様々である。例えば、生活の中で生命誕生の場面や死に直面した経験の有無によって、生命の始まりや終わりについての認識は違ったものになる。また、ペットを飼った経験の有無によって、生き物への愛着は大きく変わる。つまり、児童の生活経験のみを取り上げて授業を行った場合、自覚の深まりには差ができてしまうと考えられる。そこで1時間に1つの観点到焦点を当て、生命の尊さを感じ取れるような単元を構成した。

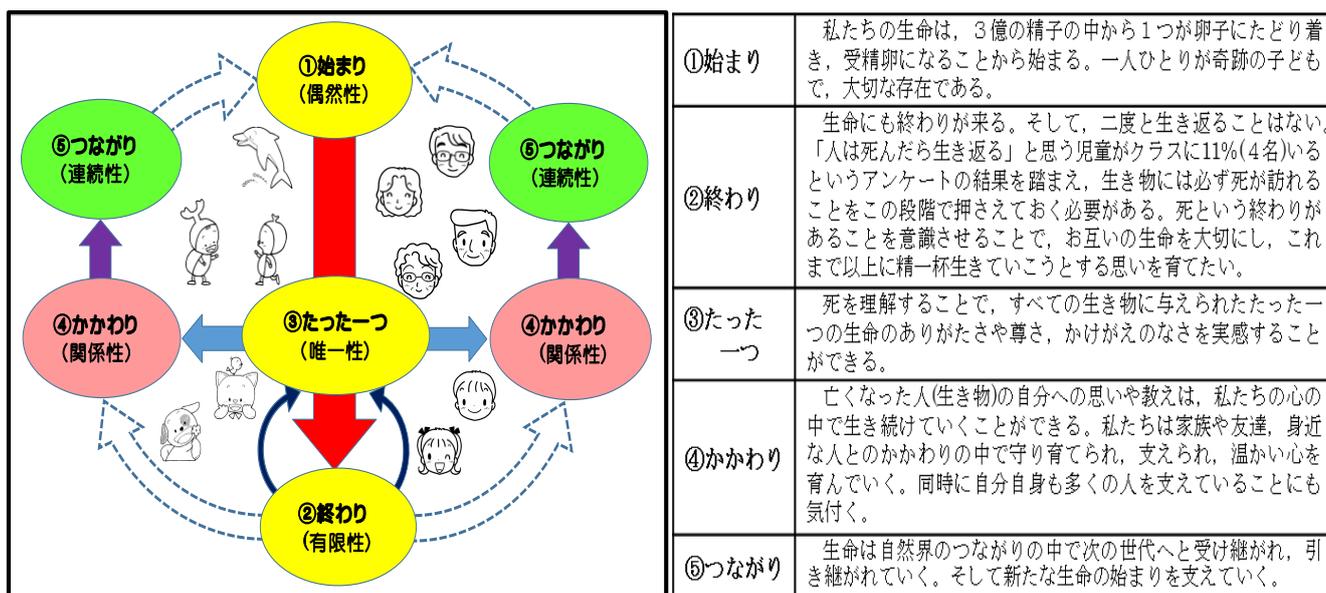


図2 5つの観点関連図とその配列について

イ ねらいとする観点到応じた資料の開発

検証授業の際、児童に提示したキーワードや資料名を以下に示した(表1)。

表1 生命を捉える5つの観点到本研究で使用する資料名

	観点	児童に提示するキーワード	資料名	出典
第1時	偶然性	「いのち」の始まり	『生きているしるし』 『いのち』より 精子と卵子の写真	光村図書(副読本) 産婦人科医 小島加代子先生提供
第2時	有限性	「いのち」の終わり	『どうぶつたちへのレクイエム』 『ありがとうロック』	日本出版社(写真集) 自作資料
第3時	唯一性	たった一つの「いのち」	『お母さんかないで』	文溪堂(副読本)
第4時	関係性	「いのち」のかかわり	『いのちのうた』	集英社(絵本)
第5時	連続性	「いのち」のつながり	『つながってる!』 『3年2組のみんなが赤ちゃんだったころ』	サンマーク出版(絵本) 自作資料

資料を授業で活用しやすくするために、資料を取り扱う際にどのようなことに留意したか、また、どんな資料であるかをまとめた(次頁表2)。

表2 授業で使用する主な資料について

	資料の概略と指導上の留意点
第1時 始まり (偶然性) 『生きてるしるし』	主人公が妹の誕生をきっかけに自分の成長を振り返り、生命の尊さを自覚していく資料。生まれたばかりの妹が赤い顔をして泣いてばかりいるのを見て、がっかりしているちえ子に、「赤ちゃんが元気に泣くのは生きているしるし」だと父は優しく語りかける。出産という生命誕生の場面であるので、児童自身も2年生時に、自分の誕生について学習したことを思い出し、ちえ子に自分を重ねて考えていくことができる。 <u>父子家庭の児童にとっても寄り添いやすいように、父親の目線で書かれている資料を選択した。</u>
第2時 終わり (有限性) 『どうぶつたちのクイム』 『ありがとうロック』	動物管理センターで殺処分される犬や猫たちの写真集と、飼い主に抱かれながら死んでいった犬の一生を綴った自作資料。この2つの資料を対比的に活用することで、人間によって絶たれた生命と、限りある一生を生き抜いた生命の違いに気付かせることができる。 <u>生命の終わりについては取り扱いを慎重にしなければ、悲しい思いをする児童が出てくるかもしれないことを踏まえ、人の死の前に動物の死を扱うことにした。</u>
第3時 たった一つ (唯一性) 『お母さんかないで』	自分の誕生日に友達を失った主人公の悲しみに共感することを通して、たった一つしかない生命の尊さを知ることのできる資料。友達を失った「わたし」の悲しみや人は死ぬと二度と生き返らないこと、だから残された人はどのように生きてらよかななどをじっくりと考えさせるのに適した資料である。 <u>副読本で死を扱ったものの中でもかなり現実的であり、恐怖心を抱く児童もいると思われることを踏まえ、人にはみな、死という人生の終わりがあることを意識させることで、お互いの生命を大切に、これまで以上に精一杯生きていこうとする思いを育てることをねらいとした。</u>
第4時 かわり (関係性) 『いのちのうた』	海に浮いている毒を水ごと飲み込む母くじらの気持ちを通して、我が子を守る愛情の深さを感じることのできる資料。 <u>あらかじめ依頼していた学級の保護者の一人に、『自分の命を大切にできる人になってほしい』との思いを手紙に書いてもらい、スクリーンに投影しながら担任が代読した。</u> そのことで、児童自身も家族や周りにいる人たちとの関わりの中で、守り育てられていると感じ取れるようにした。
第5時 つながり (連続性) 『つながってる!』 『3年2組のみんなが赤ちゃんだったころ』	家で飼っている犬の出産を通して、主人公は自分もお母さんとへその緒でつながっていたことを知るというおへそから感じる生命のつながりを描いた資料。 <u>母親とのつながりが強く表れているので、前作「いのちのまつり」を事前に読み聞かせ、特に父子家庭の児童には「お父さんとお母さんがいてくれたから、あなたはここにいる」ことをしっかりと押さえておいた。</u> スライドショーで自分が赤ちゃんだった頃の写真を見ることで、自分の生命と同様に友達の生命も尊くかけがえのないものだから、互いに尊重し合ってよりよく生きようという気持ちをもたせるようにした。

ウ 5つの観点を意識付けるための手立ての工夫

毎時間、「始まり」「終わり」など、生命を捉えるキーワードを授業の初めに提示し、児童にも書かせることで、1時間ごとの学習の視点を意識付けることにした(図3)。そして、意識付けたことを持続させるため、5つの観点の関連が見えるような掲示物の活用(次頁図4)や言葉掛けも行う。また、終末には、その時間のキーワードや写真等を記したしおりを配布する(次頁図5)。このように、生命についての意識を持続させることが、自他の生命の尊さや生きることのすばらしさの自覚を深めていくことにつながっていくと考えた。

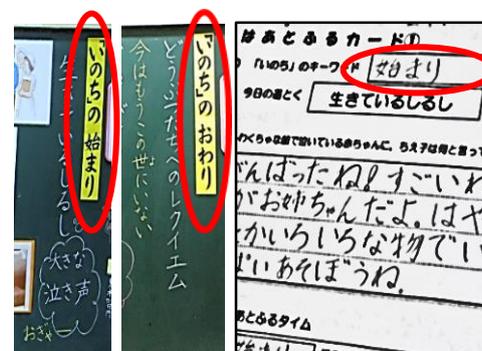


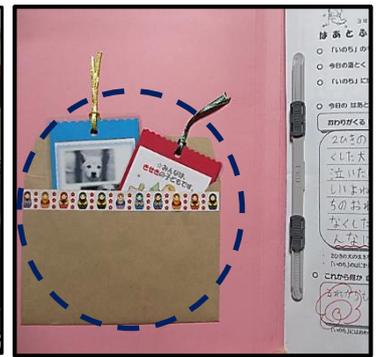
図3 キーワードの提示とワークシートへの記入



図4 導入での掲示物の活用



図5 しおりの配布と道徳ファイルの収納ポケット



(4) 授業の実践と考察

先に述べた単元構想を基に、所属校3年2組37名の児童を対象にした5時間の検証授業を行った。検証の視点と検証内容を表3に記す。

表3 検証の視点と検証内容

	検証の視点	検証内容
I	5つの観点に基づいた単元構成による生命の多面的な捉え方の確立	それぞれの時間に取り上げた観点を理解し、関連付けて考えることができたかを児童の発言やワークシートの記述から検証する。
II	自他の生命を大切にしようとする意識の高まり	アンケート調査及びワークシートの記述や行動観察を基に、児童の変容を検証する。

検証に使用したワークシート「はあとふるカード」は5時間を通して同じ形式とした(資料1)。また、事前と事後のアンケートの中で、同じ質問項目について以下に示す(資料2)。

キーワードの記入

3年2組
はあとふるカード②

○ 「いのち」のキーワード **終わり**

○ 今日の道とく **どうぶつたちへのレクイエム**

○ 「いのち」には、おわりがくることが分りましたか。

○ 今日の はあとふるタイム

おわりがくる 動物たちの「いのち」について どう思いましたか。

ペット人間たちは、かいぬしやお母さんお父さんがえらべません。とにわたしがえらべないけうでさになっている。ペットたちや、ねこはかいぬしのやさしさによってほけん戸につれていなくなるかロックみたいにかいぬしにたかして命の終わりがまきます。自分がほけん戸につれていかれていかれて命をなくすのは、とてもいざすだから

○ これから何か 自分でできることはありますか考えましたか

これならわたしが一番できることは、命の終わりが来ないかぎりから命を大切にすること。いざするまで大切にすること。ペットを飼うときは、かならず命の終わりを覚悟して飼うこと。あんなに可愛くて、かわいかった命の終わりに命をなくさないようにおんげんごをしっかりとりたいと思います。犬に対して人間に対して大切ないのち... 終わりにして、かわい

感想を綴るスペース

授業を終えての率直な

取り上げた観点について、分かったことや考えたことを記入

- ・ 道徳の学習は、好きですか？
- ・ あなたは〇月から今までに、友達が元気がないときやさみしそうなとき、声をかけてあげたことがありますか。
- ・ あなたは〇月から今までに、友達にいやなことを言ったり、悲しい思いをさせたりするような行動をとったことがありますか。
- ・ 自分の名前の由来を知っていますか。
- ・ あなたは、自分が生まれたときの話を聞いたことがありますか。
- ・ あなたは、「死」について、家族と話したことがありますか。
- ・ 人は死んだら生き返ると思いますか。
- ・ あなたにとって、一番大切なものは何ですか。
- ・ なぜ、命は大切だと思いますか。
- ・ 命と聞いて、思いうかぶ言葉を書きましょう。

資料1 はあとふるカード

資料2 質問項目

ア 授業の実際（第5時 キーワード：「いのち」のつながり 資料名「つながってる！」）

過程	学習活動	主な発問と児童の反応 T：教師の発問 C：児童の発言	指導上の留意点（◆検証の視点Ⅰ，◇検証の視点Ⅱに関わる工夫） 期待される児童の変化(教師の願い)
導入	1 これまでの学習を想起し、本時の学習を知る。 2 へその緒を見て、どんなことを思ったか発表する。	T 資料を見ながら、前の4時間を思い出しましょう。 T 今日は「命のつながり」について一緒に考えていきましょう。 T 今日は先生の宝物を持ってきました。お腹の中でお母さんと赤ちゃんがつながっていたしです。	◆ 第4時までの学習について、教室に掲示した応用紙を用いながら振り返らせた。 ◆ 黒板に「命のつながり」と本時のキーワードを提示し、今日の観点を意識付けた。 ・ 実物のへその緒や赤ちゃん人形のへその緒を見せ、母親と子どもがつながっていたしであることを押さえた上で、資料を読み始めた。 ・ 資料提示に当たっては、挿絵をスクリーンに投影しながら範読した。
展開	3 資料「つながってる！」を視聴し、ミズちゃんの気持ちを中心に話し合う。 	T 夢の中でミズちゃんが「すごーい！つながってる！」と言ったとき、どんなことを考えていたでしょう。 C たくさんの赤ちゃんがへその緒でつながっているのを見て、びっくりした。 C 私もお母さんとつながっていたんだと思った。 C いったい何人の赤ちゃんがいるのかな。 T 「お母さんありがとう」と抱きついていたときのミズちゃんの気持ちを考えましょう。 C お母さんのおかげで大きくなったと改めて気付いたよ。 C 私を大切にしてくれてありがとう。 C 生まれてきてよかった。 T 「命のつながり」について、分かったことや考えたことを書きましょう。 C これからも命はつながっていくだね。 C みんなの命はお母さんとつながっている。 C お母さんやお父さんがいてくれたからぼくは生きてると感じたよ。	・ ミズちゃんと一緒にお母さんをたどっていくるように、顔の挿絵を掲示した。  ・ 自分の命は、お母さんがいたからあるのだということや、これからは命はつながっていくということに感謝しているミズちゃんの気持ちを捉えられるようにした。 ・ 「へその緒を通してつながっていく大切なもの」＝「いのち」と板書した。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 命はつながっていることに気づき、自分の命を大切にしようとする気持ちをもつことができる。 </div> ◆ 資料での学習を振り返らせ、「命のつながり」についてのすばらしさ、大切さなどを感じ取らせた。 
終末	5 自分が生まれた頃の写真を見たり、教師からのメッセージを読んだりする。 	T 赤ちゃんの頃の写真を見て、どんなことを思いましたか。 C こんなに小さかったんだね。 C みんなかわいいな。 C 家族は私のことを大切にしてくれている。 C みんな大切な命をもっているから、「死ぬ」「殺す」などってはいけないな。	・ 児童が赤ちゃんだった頃の写真を提示し、自分の命は誰にももらったものかを考えさせた。母子・父子家庭の児童には、両親がいたからこそ自分の命が今ここにあることを改めて考えさせた。 ◇ 「みんなと同じように、友達の誰もが、どれだけ家族から愛され、大切に育てられてきたことでしょう」というような言葉掛けを行った。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 自分の命と同様に、友達の命も尊くかけがえのないものであることに気づき、互いに尊重し合ってよりよく生きようという気持ちをもつことができる。 </div> ◇ これまでの学習を振り返った上で、「自分の命を大切に思える人に、そして、他の人の命も大切に思える人になってほしい」という思いをメッセージに込め、スライドショーで流した。 ◆ 今日のキーワードや教師からのメッセージを記したしおりを配布し、手に取って見ることで、再度、観点の意識付けを行った。
未	6 しおりを見る。		

イ 【検証の視点Ⅰ】に見る抽出児の活動，ワークシートやアンケート記述の分析

5つの観点に基づいた単元構成によって，生命を多面的に捉えることができたかを，ワークシートやアンケート記述を基にして考察した。3名の抽出児の道德学習に関するプロフィールを表5に示す。

表5 抽出児のプロフィール

○児	P児	Q児
道德の学習を好きだと感じており，自分の考えをしっかりと記述し，積極的に発表することができる。感受性が強く，自分の思いを素直な文章で表現することができる。事前アンケートにおいて，「命はみんなの人生において一番大切な宝物」と記述していた。	道德の学習を好きだと感じており，自分の考えを記述することはできるが，人前で発表するのは苦手としている。指名すればきちんと答えることができる。事前アンケートにおいて，「自分のお母さんがいたからここに私がいると思う」と記述していた。	道德の学習をあまり好きではないと感じている。その理由は「なんとなく」と記述していた。自分の考えを記述したり，発表したりすることが苦手で，支援が必要なおことが多い。事前アンケートにおいて，特に命の有限性についての意識が低いことが分かった。

仮説に基づいた検証授業の事前(10月)と事後(2月)に行ったアンケートの中で，生命についての自分の考えや思いに向き合うために，「命と聞いて思い浮かぶ言葉を自由に書いてみよう」と問いかけ，「命のイメージマップ」に表現させた(表6)。

表6 「命のイメージマップ」から分かる観点の広がり

	○児	P児	Q児
10月			
2月			

個々で書いた，10月のイメージマップの記述を見ると，37名中29名の児童が「命は大切」だということに気付いていた。その他に多く書かれたものとしては，家族(22名)，一つ(18名)，生きている(17名)などがあり，表面的な捉えが多い。第5時までの検証授業を終えてから記述したのを見ると，○児は10月に，命は「家族からもらったもの」等，8つのイメージから生命の大切さを考えていたが，2月には，19のイメージから生命の大切さについて考え，生命の意味の捉えを広げたことが分かる。P児の2月を見てみると，「お母さんたちがいたからここに私がいる」「みんなが守ってくれているから，1日1日が楽しい」「一人に一つだけの命を無駄にせず」など，生命についての考えや思いをふくらませており，10月時点ではあまりなかった，具体的な文章が見られた。さらに，Q児についても「キセキ(偶然性)」「ひとつ(唯一性)」「守られている(関係性)」「お母さんお父さんからもらった(連

続性)」など、生命の大切さについて、考えの広がりがあることがうかがえる。

また、全ての検証授業を終えた後、5時間の命の授業を通して、分かったことや考えたことを全員に書かせ(表7)分析したところ、それぞれの時間に取り上げた観点を理解し、関連付けて考えていることがうかがえた。O児は「毎日学校に行けます」「楽しく遊べます」(表7下線部参照)というように、今まで当たり前だと思っていたことが当たり前ではなく、命があるからこそできることだということありがたさを実感していると考えられる。3人の感想を表7に示す。

表7 5時間の授業を終えての感想 (波線は5つの観点に関する記述)

○児	P児	Q児
私は毎日学校に行けます。毎日楽しく遊べます。私は毎日それが当たり前と思っていました。でもそれは当たり前のことじゃありません。いつも誰かが見守ってくれるからできること。家族が大切にしてくれるから。(関係性)私がこの世に生まれてきていなかったらとても後悔します。(偶然性)私には家族がいる、友達がいる。だから楽しい、だから悲しい。それがあってから幸せ。怒られてもそれが自分のため。みんなありがとう。いつもいつもありがとう。生きていられてよかった。	私はお母さんのお父さんとは会ったことがありません。私が生まれたときには死んでしまっていて、お母さんが「優しい人だったよ。」と言っていて、もし生き返れるなら1回でも会いたけれど、会えない(有限性)ので、時々お手伝いで休みの日は、じいちゃんのごはんをかえてから、写真のそばに何かを置くこともあります。そして、ひいばあちゃんにも折り紙などで作ってお供えています。命はつながっているんだなと思いました。(連続性)	道徳の話に出てきたのはクジラの親子だったよ。何でお母さんクジラが死ぬんだろ。(有限性)子どもが一番大事なんだ。動物に命があるって分かりました。(唯一性)これから自分の命をもっと大切にしたいです。

ウ 【検証の視点Ⅱ】に見る児童のワークシート記述の分析

自他の生命を大切にしようとする意識の高まりが見られたかを、事前(10月)と事後(2月)にクラス全員を対象として行ったアンケート「あなたにとって、一番大切なものは何ですか」の記述内容を基に考察したところ、抽出児において表8のような変化が見られた。

表8 一番大切なもの(3人の抽出児の記述)

	○児	P児	Q児
10月	家族	いのち、家族	<input type="text"/> (友達の名前) <input type="text"/> (ゲーム機の名称)
2月	家族、い、おじいちゃん、おばあちゃん、いのち	えがおであたたかい家族、一人一つの命、家族でうつった写真	命、DSホウケン、友だち、DSクレヨン、いじちゃんの本

このアンケートを行ったところ、児童から、1つでは書けないとの声が多く聞かれたので、必ずしも1つでなくていいことを教師から伝えた。そのことを踏まえた上でアンケートを分析すると、抽出児の3名ともが、2月のアンケートで「命」という言葉を書いていることが分かった。O児は最初、「家族」の1つだけを書いていたが、事後には、家族からつながっていく生命をイメージし、「家族、い、おじいちゃん、おばあちゃん、いのち」と書くことができた。P児については、「いのち」「家族」から、「一人一つの命」「えがおであたたかい家族」というように、自分の生命や家族についての思いや考えの広がりが見られる記述となっていた。特に変容が見られたのはQ児で、好きなゲームやキャラクターの名前より先に「命」と書いていた。Q児はクラスの中でも特に、「命の有限性」に対する意識が低かったため、「5つの観点」を踏まえ、連続して配列した授業を仕組んだことで、すべての生き物に与えられた、たった一つの生命のありがたさや尊さ、かけがえのなさを実感しつつあると考えら

れる。クラス全員について分析したうち、回答の多かった「命」「家族」「友達」「親戚」「ペット」の5つについて、人数の変容を表9に示す。

表9 一番大切なもの(全体の変容)

n=37

	命	家族	友達	親戚	ペット
10月	22人	28人	12人	2人	1人
2月	30人	35人	18人	9人	5人

いずれについても記述した児童数が増えていることが分かり、抽出児だけでなく、クラス全体についても、自他を大切にしたいという思いの広がりが見られる結果となっていた。このうちの2名については、10月は無回答だったものが、2月には、2名とも「家族」と書くことができていた。

さらに同じ検証の視点Ⅱから、抽出児Rのイメージマップとアンケート記述を基に分析した(表10)。

表10 「命のイメージマップ」と「一番大切なもの」の記述に見られる意識の高まり(R児)

10月		<p>家族といここが一番たからもの</p>
2月		<p>かぞくです。子どもだけわたしはまもりたいとおもいます。</p>

R児(表11)はもともと、家族を大切にしたいという思いをもち、10月のアンケートにおいても、「家族といここが一番たからもの」と記述していた。さらに、命のかかわり(関係性)やつながり(連続性)の授業で、自分もいずれ母親になるという思いを深め、2月には、「わたしは(家族を)まもりたいとおもいます」と書いていた。イメージマップにもそれが表れており、「いのち」の真上に「かぞく」と書き、そこから「みんな」「赤ちゃん」「ペット」等、多くの人や生き物が自分と関わり合っていることが感じ取れるものとなっていた。そして、5時間の授業を終えての感想には、「わたしは、そんなに大切じゃないと思っていたけど、やっぱり命って一番大切だと授業で分かりました。今度から友達や自分の命を大切にしていきたいと思います。みんな(クラスの友達)は家族じゃないけど、どこまでもつながっているんだなと思いました」と記述しており、自分や友達の命に対する意識の高まりがうかがえた。また、同じ質問の中で、他の児童においても、自他の生命の大切さに触れる内容のものが多く見られた。感想の一部を示す(資料3)。

表11 R児のプロフィールと配慮した点

道徳の学習を好きだと感じており、理由については「心の勉強になるから」と書いていた。自分の思いを伸び伸びと記述することができる。父子家庭の児童であるので、生命尊重でも特に母親とのつながりを取り扱う授業の前や、赤ちゃんの頃の写真等を依頼する際は、祖母と電話連絡をし、授業の趣旨を話すよう心がけた。

「命はみんなに一つしかない。命をくれた人はお母さんです。私は今も命を大切にしているけど、もっと命を大切にしていきたいと思います。人や虫や魚も命が大切ということが分かりました。」

「私はおじいちゃんの家で金魚を飼っていました。ところが10ひき飼っていたら9ひきになっていて、私は『かわいそう。もう寿命がきちゃったのね。』と思いました。たった一つの命だからこそ大切にしないとイケなかったんだなと思いました。だから、すぐに『死ぬ』なんて言ったらだめだと思います。私は命を大切にしています。もう二度と『死ぬ』なんて言いたくないです。」

「5つの(授業の)おかげで弟に少し優しくできるようになったし、けんかも少なくなった。」

「命は人間だけじゃなくて、動物にも植物にもあるんだなあと思いました。命は一つだけしかないの、植物を採るときや牛や豚のお肉や牛乳をいただくときには、感謝するように心がけたいなと思います。」

「ぼくが家族からそんなに大事にされているとは思っていませんでした。」

資料3 5時間の授業後の感想

このように、自分の生命だけにとどまらず、他の生命も大切にしたいという記述が増えてきたことは、研究の成果であると考えられる。

児童は、資料に出てくる様々な生命を実感し、自分と身近なもの、つながりのあるものとして捉えることができた。また、5つの観点からねらいに迫ることで、生命を様々な角度から見たり深く考えたりすることができた。その結果、友達が元気のないときに声をかけてあげるなど、友達のことを大切にしようとする言動が見られるようになり、それに伴って道徳の学習が好きだという児童も増加した(図6)。これらのことから、自他の生命を大切にしようとする意識が高まってきたと考える。

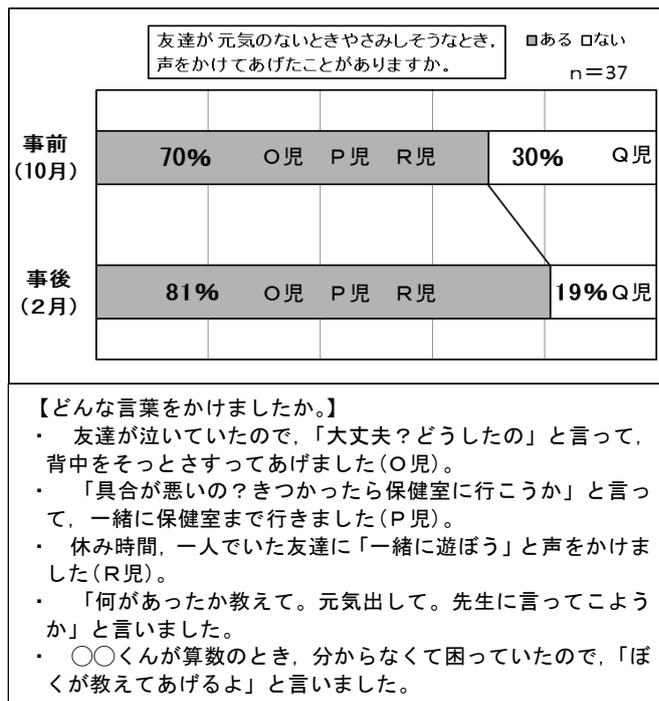


図6 児童の意識の高まり

7 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

- ・ 5つの観点に基づいた単元を構成し、児童の実態に応じて授業を工夫したことで、生命の尊さを多面的に捉えることができた。
- ・ 5つの観点を明らかにすることで、生命に対するイメージが深まったり広がったりし、自分の生命だけではなく、他の生命の大切さについても考えを深めることができるようになった。

(2) 今後の課題

- ・ 5つの観定の順序性について、児童の実態や発達の段階に応じて、よりよい単元構成の在り方を今後も研究していく必要がある。
- ・ より生命の大切さを児童に捉えさせるため、道徳の時間と各教科、領域等に関連付ける指導の工夫を図っていく必要がある。

《引用文献》

- 1) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説道徳編』 平成20年 東洋館出版 p.44
- 2) 立石 喜男編著 『小学校道徳 自他の生命を尊ぶ』 平成9年 明治図書 p.26

《参考文献》

- ・ 笹田 博之編著 『総合単元的道徳学習の実践』 平成7年 明治図書 p.14